

むゆいげ

114号
No.1114

2016(平成28)年
11月1日

セトモノと
セトモノと
ぶつかリッこそすと
すべこゆれちかう
どっちか
やゆらかけねば
だいじょうぶ
やゆらかいこころを
もちましよう
えういうわたしは
いつもセトモノ
みつを

相田みつを美術館
オリジナルカレンダーより頂きました

発行者:高槻市氷室町2-19-30
浄土真宗本願寺派

萬徳寺

電話(072)696-0666
FAX(072)692-0769

↓スマホからでも見れます

<http://mantokuji.net>

うけつぐ伝灯 伝えるよろこび

専如ご門主10月から
伝灯奉告法要始まる

10

月1日、本山・本願寺で伝灯奉告法要が始まりました。

この法要は宗祖親鸞聖人があきらかにされた「浄土真宗のみ教え」が、聖人から数えて第25代となる専如ご門主に伝えられたことを、仏祖の御前にご門主が告げられるとともに、お念仏のみ教えが広く伝わることを願い、来年5月31日にかけて10期80日間（1日1座）つとめられます。

親鸞聖人から脈々と受け伝えられたみ教えが、今、私たちに届けられているのです。

どうぞ皆さま！この尊いご縁にぜひ一度お参りしてください。



苦悩や悲しみをかかえる人の
問題のすべてを解決できなくても ともに生きていく

一

一般に自分の力で修行してさとりをめざす仏教では、他人に利益をもたらし行いを「利他行^{りたぎょう}」と言って重視しますが、浄土真宗の場合は、この意味での「行」はありません。浄土真宗には私たちがいまこの世で実践する利他行という考え方はないので、自分自身が阿弥陀さまと出会う浄土真宗的な生き方を考える中で、自分一人の幸せを考えているだけでいいのかという観点から、自分の内面をしつかりと見つめていくことを大切にします。

いろいろな苦悩や悲しみをかかえている人に対して、私たちがその問題のすべてを解決して助けることができずにしても、そういう人たちとともに生きていくというところで、社会とのかわりが生まれてくるものだと思います。

他人の喜びを喜びとし、他人の悲しみを悲しみとする阿弥陀さま。慈悲の心、見返りを求めない生き方。まったく及ばなくとも、私たちも少しでもそんな生き方をしたいものです。

※専如ご門主の著書「ありのままに、ひたむきに
不安な今を生きる」から頂戴いたしました。





9月13日、本願寺で帰敬式を受式し、ご門主様より法名をいただきました。併せて、懇志を進納し院号を授与していただきました。



9月15日に仏教婦人会の常例法座をお勤めました。講師は摂津市の葭田誓子師にお越しいただきました。



平成28年報恩講法要ご案内

◎十一月十二日(土)

昼席 午後二時(逮夜)

夜席 午後七時(初夜)

◎十一月十三日(日)

朝席 午前十時三十分(日中)

※朝席は仏教婦人会の御座。その後総会

昼席 午後一時三十分

(逮夜)ご満座

ご講師 本願寺布教使 武田達城師



★年行司の方によります、お志の受付(帳場)は、午後二時二十分よりしていただきます。

★熊本大震災の被災地の一日も早い復興を願って「熊本大震災義援金」募集を行っています。ぜひご協力お願いいたします。

除夜会ご案内

◎十二月三十一日(土)

午後十一時三十分より午前一時過ぎまで

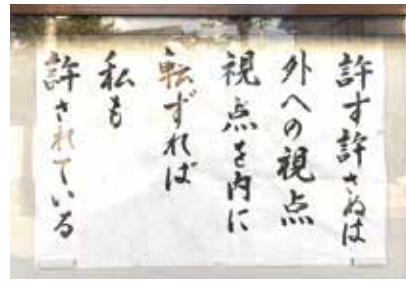
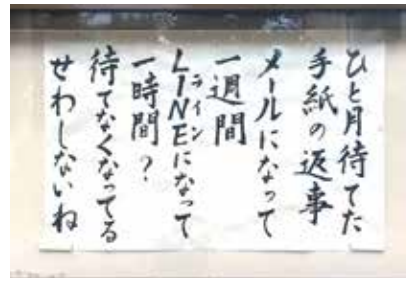
★深い静寂のなかに、ゴーン、御恩と殷々と響きわたる鐘の音は、そのまま阿弥陀さまの「お念仏せよ」とのお喚び声です。大晦日の夜、除夜の鐘を撞いて阿弥陀さまにお礼を申しあげて、一年の仏事行事の締めくくりとしてください。お正月はお家族そろってご仏壇に慶びのお参りをいたしましょう。

住職のひとり言



◆11月、秋が深まってまいりました。少し前までは暑い！暑い！10月も入ったのに涼しくならんのか！と叫んでいたのが遠い昔のように思います。陽が落ちるのが早くなり、夕陽が長くのびる季節。人生の寂しさの中で、この季節は我がいのちを見つめ、育てていく一時です。

◆報恩講の季節を迎えました。報恩講は、親鸞聖人がお念仏一つでこの私が救われていく道をあきらかにしてくださったことに感謝申しあげる念仏者の法要です。苦しみや



▲地域の皆さまから好評いただいている伝道掲示板

悲しみをかかえ悶々もんもんと生きている私が、お念仏を申す身とならせていただいたことで、苦しんでいき、悩んでいける幸せを感じる法縁が報恩講でもあります。お念仏をいただきながら、我が人生を見つめ直すご縁に遇ってくださいませ。

個人情報により非表示にさせていただきます。

亡くなられた方々の娑婆で

のご苦労が偲ばれます。ご家族の皆さまは、今は悲しみ、寂しさの真ただ中ですが、尊い尊い仏縁に遇っていただいています。「悲しみを通さなければ見えてこない世界」があります。どうぞご仏壇の前に額ぬかずき、お手を合わせ、亡き人と遇ってくださいませ。お念仏を申すお心は、そのまま「あなたを見捨てないよ！今いただいたいのちをよるこびなさい！」との阿弥陀さまの喚よび声。そして亡き人から届けられた尊いお念仏の心をお味わいくださいませ。

